

遺跡整備に関する研究集会

遺跡整備研究室では、これまで遺跡整備の実務に携わる行政担当者・研究者等を対象とする研究集会を実施してきました。今年度は、2015年1月16日に開催し、参加者は85名でした。

遺跡の環境整備事業は、昭和40年代から始まり、その当初に整備された遺跡では、経年により施設の劣化・陳腐化が進んだり、遺構の保存上の問題が生じたりして、再整備を実施・計画している事例が増えています。そこで、今年度の研究集会では、「史跡等の整備・活用の長期的な展開 ―経年によるソフト・ハードの変化と再生―」をテーマとし、前半に、長期に渡り整備を実施している3つの遺跡（登呂遺跡、一乗谷朝倉氏遺跡、西都原古墳群）の担当者から、整備事業のこれまでと現状を発表いただきました。後半には、遺跡整備とは異なる分野の3名の方から博物館、都市公園、動植物園（江戸東京たてもの園、東京都美術館、東山動植物園）の再生について発表いただき、各分野でも遺跡整備と共通の課題を抱えながら再生事業に取り組んでいることを確認しました。その後の総合討議では、基本方針等の見直し、事業効果の把握・評価、社会的ニーズの変化への対応、施設の老朽化・展示の陳腐化に対する対策、運営体制における協働・連携の重要性等について議論しました。

参加者からは、「市民に求められているものは遺跡も同じで、先行して取り組んでいる異分野の事例や考え方は参考になった」との感想をいただきました。これからも遺跡整備特有の問題に取り組みつつ、広い視野で調査研究を続けていきたいと思えます。

（文化遺産部 高橋 知奈津）



総合討議の様子